荒尾市立府本小学校　校長便り　No.3

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和7年4月18日(金)

雑感

少し暑くなってきましたね。我が家ではこの時期は毎年、母がお茶を炒ります。その時は、玄関までお茶の香りが漂います。そして、新茶として淹れられたお茶を飲むわけですが、味はともかくとして、生活の中で季節を感じるひと時となっています。

私の両親は二十四節気を大切にしておりまして、節目節目に準備する食べ物や飲み物については必ず準備します。私たち子や孫は、その体験で背景にある歴史や人々の願いを学んできました。だからこそ伝えていかなければならない責任が教師にはあるのかもしれません。

夏も近づく「八十八夜」は、今年は5月1日（水）です。日本茶でちょっと贅沢な時間を過ごしてみては如何でしょう？　府本小学校では本物体験として「お茶栽培」を行っていますね。今から楽しみです。来週末からゴールデンウィークに入りますが、節約してみんなで心を和ませる何かを探してみませんか？

お便りを頂きました

今週「みんなの居場所」の感想のお便りを頂きました。とても嬉しいですね。読んでくださる方がいらっしゃるんだと思うと、執筆へのモチベーションも上がります。

身の引き締まる思いでお便りを読ませていただきました。楽しみにしていただいていることに嬉しく思いながら、責任の重さを改めて痛感すると共に、一保護者として皆様と情報共有していこうと思いました。この「みんなの居場所」も、私からばかりの発信ではなく、双方向の発信や交流も行うことができればいいですね。今後も多くの話題を提供してまいりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。

交通安全を祈る

今週初め、樺公民館前の交差点で交通事故が起こっていました。連絡を受けた時は、本当に肝を冷やしました。子どもたちの登校時間と重なっていたからです。教頭先生が現場に直行し、児童の安全確保と確認をしてくれました。子どもたちに大きな影響は無かったようですが、一歩間違えればと考えると本当に怖いです。GW前、ご家庭で交通安全について再度話題にして頂きたいです。

自立への第一歩
メディア・コントロール

先日、JRを利用した折り、車中9割ほどのお客さんがスマホを見ています。その中で、私は文庫本を読むのですが、一人だけ本を読んでいると、私だけ時代遅れのような気がして、淋しくなってしまいました。

さて、ソーシャル・メディアは、便利ですが扱いを間違えるとトラブルの元になります。犯罪に巻き込まれること、犯罪者になってしまう恐れもあります。しかも無意識のうちにです。例えば、動画のアップ。「面白いから」という簡単な理由で、個人が特定できるような映像をアップしたとします。了解を得ずにアップした場合、権利の侵害に当たります。更に、簡単にアップできるために、最近の中学生高校生は、ソーシャル・メディアをおもちゃと勘違いしているような節があります。非常に危険であり、危機管理が出来なければ使用は控えるべきです。スマホを使わせるにあたり、大人が危機感を持っていなければ、子どもに使わせるべきではないですし、子どもに危機感がなければ、すぐにでも使用を中止すべきです。私は、我が子の高校進学時、スマホ貸与の契約をしました。扱いについてはある程度のルールを強制していました。反発もなく、それよりも部活（野球）に全力投球していました。ただ、時間があるとSNSの誘惑に負けてしまうのが若さというか弱さというか…。

メディアに限らず、やるべきことをきちんとやるということは、誘惑に打ち克つことなのです。

シリーズ「自分を語る」#③

私が物心ついた頃？のお話です。当時、我が家には白黒テレビがあったそうです。両親はいわゆる「わさもん（早生者）」で、新しい物にはすぐに飛びつくという習慣があったようでした。

私の年齢はまだまだ3歳くらいでしょうか、両親はそのように言っていました。茶の間で食事が済み、家族団らんの時間を過ごしていた時の事、私はお腹いっぱいになって、テレビを見ながら茶の間でウトウトしていたようでした。いわゆるまどろみの中だったのでしょう。暫くすると、私は突然起き上がって周りを見回していたそうです。何と私はその時、寝ぼけていたのです。両親は笑いながらそれを見ていたようなのですが、その後の私のとんでもない行動に、両親は慌てふためくことになります。

どんな夢を見ていたのか分かりませんが、私はテレビに近づいて行って画面をじっと見ていたようでした。そして数秒間が過ぎた後、私は体をブルッと震わせたそうです。どうやらこれが私のおしっこをしたいというサインだったようです。それを見た両親は慌てたそうです。でも、「まさかねぇ？」という油断があったのでしょう、そのまさかが本当に起きてしまいます。私はおしっこの準備をして、テレビの画面に向かって用を足していたそうです。困ったものです。

私が幼少期を過ごした時代は、社会に活気が溢れていたそうです。私は1966（昭和41）年生まれですが、その2年前に東京オリンピックが開催され、日本全体に発展、前進していくというエネルギーに満ち溢れていた時代だったのでしょう。それが良く表現されていたのが、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」でしょうか。子どもを育てていくのも、親だけでなく地域住民総出でということが普通に行われていた時代だったようです。

私はそんな時代に生まれて育ちました。還暦を前に、最近の若者はと口にすることもあり、時代の移り変わりを感じています。社会の流れに乗り、私達は国民のニーズに合わせて自己変革を図り、スキルをアップデートしていかなければならないのですね。でも、それこそが教師の仕事の楽しいところです。常に新しいことに取り組むことができ、自己変革によって時代に即応し、力に変えていくのですから。しかし、学校現場にいると、変わってはいけないものにも気が付きます。「不易と流行」の不易の部分です。例えばあいさつです。地域で生活していくためには、多様な他者と協働していかなければなりません。それに必要なものの一つがあいさつです。更に、相手の心に寄り添うこと、笑顔を絶やさないなど、多くの不易があります。いけね、また話題がそれた!?　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）